

化学物質管理センターによる ウェブサイトからの情報提供

独立行政法人

製品評価技術基盤機構

化学物質管理センター

計画課 竹田 宜人

発表内容

- 1 ウェブサイトで発信している情報の種類と現在の活用状況
- 2 NITEのウェブサイトは化学物質管理にどのように役立つのか？

化学物質管理分野

化学物質の総合的なリスク評価・管理に関するさまざまな情報を提供しています。

6月21日(水) NITE 化学物質管理センター 成果発表会 2007

CHRIIP | GHS | 濃度マップ | 身の回りの製品に含まれる化学物質 | リスクコミュニケーション

目次

- 化学物質管理分野
- 資料(パンフレット及び広報誌)
- 化学物質と上手に付き合うには(わかりやすい解説のページ)

化学物質管理とは

化学物質は、私たちが生活する上で欠かせないものですが、一方で安全性に関する社会問題が生じていることも事実です。安全で安心できる社会生活の実現のためには、化学物質のリスクを適切に管理し、削減するとともに、リスクコミュニケーションにより関係者の理解を進める必要があります。

化学物質総合管理のナショナルセンターとして

NITE 化学物質管理センターは、経済社会の発展と国民生活の安定を支える技術的な基盤の整備を目的とした化学物質総合管理のナショナルセンターとして、国・地方自治体、研究機関、民間企業、消費生活者などすべての関係者に対し、化学物質に関する科学的知見や法令・国際ルールに基づいた技術・情報面からのサポートを行っています。

お知らせ

化学物質とは >>

リスクとは >>

資料(化学物質と上手に付き合うには) >>

化学物質総合情報提供システム(CHRIIP)

化学物質総合検索システム >>

PRTR制度対象物質データベース >>

既存化学物質安全性点検データ >>

FAQ(よくあるご質問) >>

化学物質管理関連情報

JAPANチャレンジプログラム >>

GHS分類結果データベース >>

国際とのつながり >>

化学物質のリスク評価管理に関する業務

- 2007/6/19 ● 厚生労働省、経済産業省及び環境省から平成19年6月19日(水)中欄物としての新規化学物質製造(輸入)申請書等の記載例についてが公表されました。
- 2007/6/19 ● 厚生労働省、経済産業省及び環境省から平成19年6月19日(水)輸出専用用品としての新規化学物質製造(輸入)申請書等の記載例についてが公表されました。
- 2007/6/19 ● 「平成19年度特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律に基づくMSDS制度と海外のMSDS関連制度との比較等に関する調査報告書」を公開しました。
- 2007/6/18 ● 「化学物質の初期リスク評価書」及び「化学物質の排出経路データシート」を3物質追加し合計63物質になりました。
- 2007/6/18 ● 「化学物質の初期リスク評価書」の2物質の修正版と正誤表を公開しました。
- 2007/6/6 ● 平成17年度届出外排出量の推計において、一部(※)データの誤りがありましたので、修正されました。(※洗浄剤・化粧品等に係る排出量のうち、界面活性剤に関する数値)
- 2007/6/6 ● 平成17年度のPRTR排出量マップの追加及び過年度のPRTR排出量マップの更新を行いました。
- 2007/5/31 ● 平成19年5月31日に、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律第2条第4項の規定に基づき、第一種監視化学物質として指定された化学物質の名称が新たに8物質公示されました。
- 2007/5/28 ● NITE CMCレター第5号を発行しました。
- 2007/5/16 ● 化審法新規化学物質の次回ヒアリングは平成19年6月28日(木)、申込み締切日及び事前の資料提出期日は平成19年5月31日(木)15時です。※平成19年6月分届出から、資料の作成・提出等が変更となっております。
- 2007/5/16 ● NITE化学物質管理センター成果発表会2007を開催します。

1 ウェブサイトで発信している情報の種類と現在の活用状況

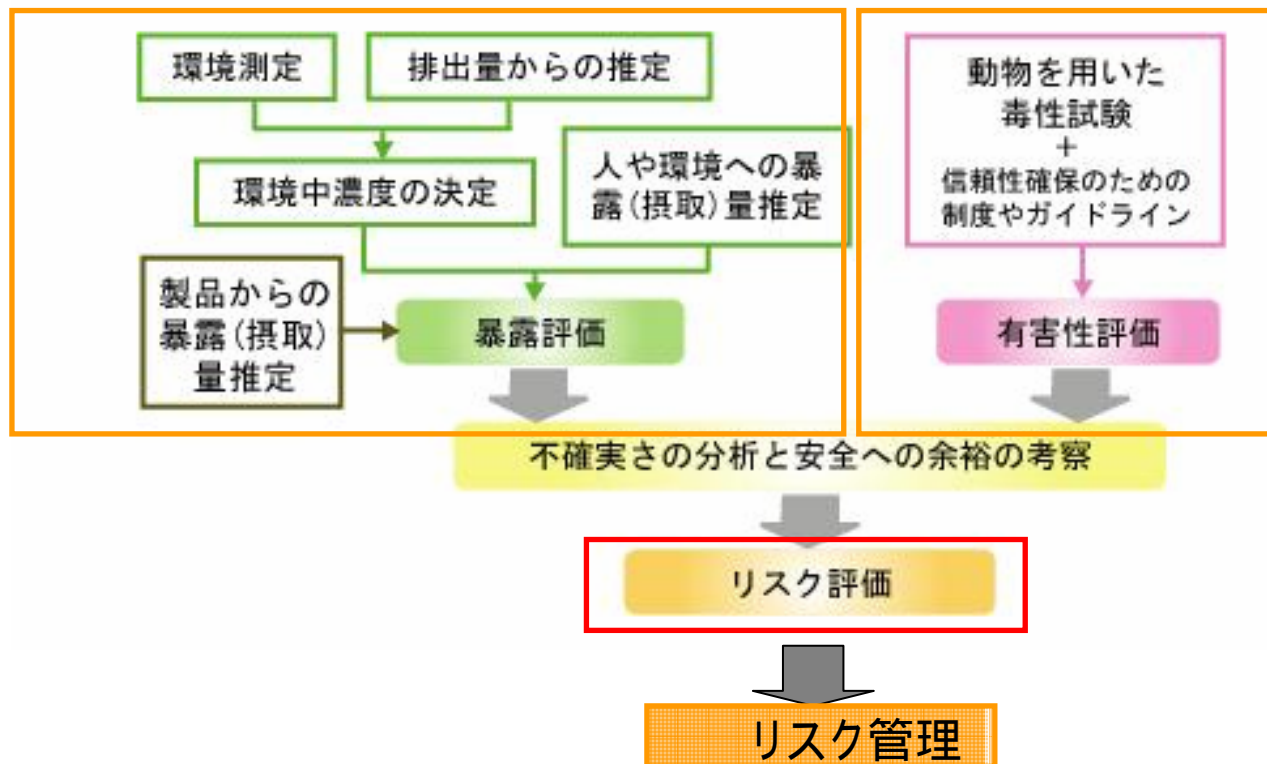
情報の区分	ウェブサイト目次	化学物質と上手につき合うために(わかりやすい解説のページ)	化学物質総合情報提供システム (CHRIP)	化学物質管理関連情報 (GHSなど)	化学物質のリスク評価・管理に関する情報	化管法関連業務	化審法関連業務
法規制情報(海外含む)							
有害性情報							
暴露情報							
リスク評価の情報							
化学物質管理に関する情報(リスクコミュニケーションなど)							
物理化学性状等の情報							

化学物質管理センターウェブサイトのサイトマップと利用件数(月平均)

サイトマップ site map	<ul style="list-style-type: none">● 化学物質管理分野 TOPページ<ul style="list-style-type: none">▶ リンク集● 資料(化センターパンフレット、レター)● 化学物質と上手に付き合うこと(わかりやすい解説のページ) 約4.8万ページ<ul style="list-style-type: none">▶ 化学物質とは▶ リスクとは▶ 資料(化学物質と上手に付き合うこと)● 化学物質総合情報提供システム(GHS) 約44万ページ<ul style="list-style-type: none">▶ 化学物質総合検索システム▶ PRTR制度対象物質データベース▶ 既存化学物質安全性点検データ● 化学物質管理関連情報 約7.7万ページ(GHS)<ul style="list-style-type: none">▶ JAPANチャレンジプログラム▶ GHS分類結果データベース▶ 国際とのつながり● 化学物質のリスク評価管理に関する情報 約10万ページ<ul style="list-style-type: none">▶ NEDO化学物質管理総合プログラムとその成果▶ 化学物質リスク評価管理研究会▶ 化学物質リスク削減技術
--------------------	---

● 化管法関連業務 約14.3万ページ
<ul style="list-style-type: none">▶ 法律の目的▶ PRTR制度▶ MSDS制度▶ PRTR制度対象物質データベース▶ Q&A▶ 資料(化管法管理)
● 化審法関連業務 約5.2万ページ
<ul style="list-style-type: none">▶ 過去の改正及び資料等▶ 化審法▶ 旧化審法▶ 届出・申出等について▶ GLP制度▶ 化学物質情報(3省DB)▶ 構造活性相関に関する取り組み▶ 資料(法律等)

2 NITEのウェブサイトは化学物質管理にどのように役立つのか？



例えば 塩化メチレンを取り上げてみましょう。
金属製品の洗浄剤 PRTR法第一種指定化学物質 化審法第二種監視化学物質

法規制情報

<http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

CHRIP表示画面

II. 国内法規制情報 [先頭に戻る](#)

各表中の「分類」欄において「特定できず」と記載されているものは、それぞれの法律の対象物質に該当していない場合、又は、法律では「〇〇化合物」のように包括的な名称で指定されていることから対象物質であるか否かを特定できない場合に表示されます。

化学法 データの説明

分類	既存/指定(2型)	官報公示整理番号	2-36
既存名称 官報公示名称	メチレンクロライド		
指定化学物質 通知番号	371	官報公示日	2000/09/22
指定 化学物質名称	ジクロロメタン(別名塩化メチレン)		

〈注意〉官報公示名称(既存化学物質)は、当センターにおいて既存名称の1類から6類及び9類の一部の物質の官報公示名称に対してのみCAS番号を付与しています。それ以外の既存化学物質、白物質にはCAS番号を付与していないため、「分類」欄において「特定できず」と表示されます。

化学法既存化学物質安全性(分解性・濃縮性)点検結果 データの説明

経済産業公報 公表名称	ジクロロメタン
点検対象 物質名称	ジクロロメタン[CAS_NO:75-09-2]
判定結果	難分解性/低濃縮性

化学物質排出把握管理促進法(MSDS制度対象) データの説明 [MS](#)

分類	第一種	政令
政令名称	ジクロロメタン(別名塩化メチレン)	

労働安全衛生法(MSDS制度対象) データの説明 [MSDS情報へ](#)

分類	特定できず	政令番号1	-
政令名称1	-		
MSDSの義務	対象	政令番号2	政令第18条の2別表第9の257
政令名称2	ジクロロメタン(別名二塩化メチレン)		
既存化学物質点検 実質毒性	強度の変異毒性が 認められる	点検物質名称	塩化メチレン

大気汚染防止法 データの説明

分類	有害大気汚染物質/優先取締	政令番号	中環審答申の91
政令名称	ジクロロメタン		

水質汚濁防止法 データの説明

政令番号	政令第2条第11号	排水基準	0.2mg/L
政令名称	ジクロロメタン		

有害性情報

CHRIP表示画面

IV. 各国有害性評価情報 [先頭に戻る](#)

化学物質安全性(イザード)評価シート [データの説明](#)

評価シート番号	96-2	公表・更新年月	1997/07	詳細情報	評価シート(PDF)
評価物質名称	ジクロロメタン				

化学物質有害性評価書/初期リスク評価書 [データの説明](#)

評価書番号	No.15	詳細情報	有害性評価書(PDF) (公表・更新年月:2004/09)
			初期リスク評価書(PDF) (公表・更新年月:2007/01)
評価物質名称	ジクロロメタン(別名: 塩化メチレン)		

有害性評価書のまとめ

環境中運命	生分解性	好氣的生分解(化審法): 難分解性と判定 好氣的生分解(その他): 特定の好氣的条件下では生分解される 嫌氣的生分解: 特定の嫌氣的条件下では生分解される
	生物濃縮性	濃縮性がない又は低いと判定(化審法) 生物濃縮係数BCF: 2.0 - 40 (コイ) オクタノール/水分配係数log Kow: 1.25 (測定値)
環境影響	藻類に対する毒性	急性: 96時間EC50: >662 mg/L (セレナストラム、スケルトネマ 成長阻害)
	無脊椎動物に対する毒性	急性: 48時間LC50: 108.5 mg/L (グラスシュリンプ 幼生)
健康影響	魚類に対する毒性	急性: 48時間LC50: 97.0 mg/L (マミチョグ) 慢性: 27日間LC50: 13.2mg/L (ニジマス 受精卵)
	急性毒性	経口: LD50: 1,710 mg/kg ラット 吸入: LC50: 15,000 ppm (53,000 mg/m3) (ラット マウス 6時間) 備考: ヒト関連情報あり
	刺激性及び腐食性	皮膚: 中程度 目: 中程度 備考: ヒト関連情報あり
	反復投与毒性	経口: NOAEL: 5 mg/kg/日 (ラット 2年間 飲水 肝臓及び血液への影響) 吸入: LOAEL: 25 ppm (88 mg/m3) (マウス、ラット 100日間 (24時間暴露) 肝細胞空胞化、肝細胞変化) 備考: 肺及び肝臓が毒性標的器官。ヒト関連情報あり
	生殖・発生毒性	ラット、マウスを用いた生殖発生毒性試験でジクロロメタンの影響はみられていない
	遺伝毒性	GSTT1 遺伝子の発現する生物種や個体で遺伝子傷害性が発生する可能性がある in vitro 及び in vivo 試験報告あり
	発がん性	発がん性は完全には否定できない 実験動物に対する発がん性試験報告あり ヒト関連情報あり

暴露情報 (PRTR排出量、環境濃度など)

CHRIP表示画面

製造・輸入量 - 化審法監視化学物質届出結果 データの説明

分類/通し番号	指定(2監)/371
指定化学物質の名称	ジクロロメタン(別名塩化メチレン)
平成15年度(t)	75,714
平成16年度(t)	74,374
平成17年度(t)	72,133

PRTR- 排出・移動量 データの説明 この物質の排出量マップへ

種別- 政令番号	1-145			
政令名称	ジクロロメタン(別名塩化メチレン)			
排出・移動量	排出量(kg/年) [※]			移動量(kg/年) [※]
	届出	推計	合計	
平成17年度 Q007.2.23 公開版	22,239,171	2,015,428	24,254,600	10,742,385
平成16年度 Q007.2.23 改訂版	22,065,079	2,715,320	24,770,398	9,815,900
平成15年度 Q007.2.23 改訂版	24,695,123	2,050,350	26,749,472	9,323,339

※ダイオキシン類の場合のみ単位は「ng-TEQ/年」です。

環境省環境調査結果 データの説明

媒体	年度	検出数/検体数	検出地点/調査地点	検出範囲	検出限界
水質	-	-	-	-	-
底質	-	-	-	-	-
魚類	-	-	-	-	-
その他(大気)	1998	42/42	14/14	280-24000ng/m3	70ng/m3

物理化学性状情報

CHRIP表示画面

V. 物理化学性状情報 [データの説明](#) [先頭に戻る](#)

	値	測定条件	備考	出典
融点	-95℃	-	-	1
沸点	38.5-40.5℃	-	-	1
対水溶解度	20g/L	-	-	1
蒸気圧	400mmHg	24	-	1
分配係数	1.25	-	実測値	1
比重又は密度	1.322-1.326	20/20℃	-	1
蒸気密度	-	-	-	-
ヘンリー定数	-	-	-	-
引火点	-	-	-	-
発火点	-	-	-	-
燃焼範囲	-	-	-	-

出典

1 化学物質安全性(イザード)評価シート96-2

有害性情報 (GHS分類結果データベース)

<http://www.safe.nite.go.jp/ghs/ghsi.html>

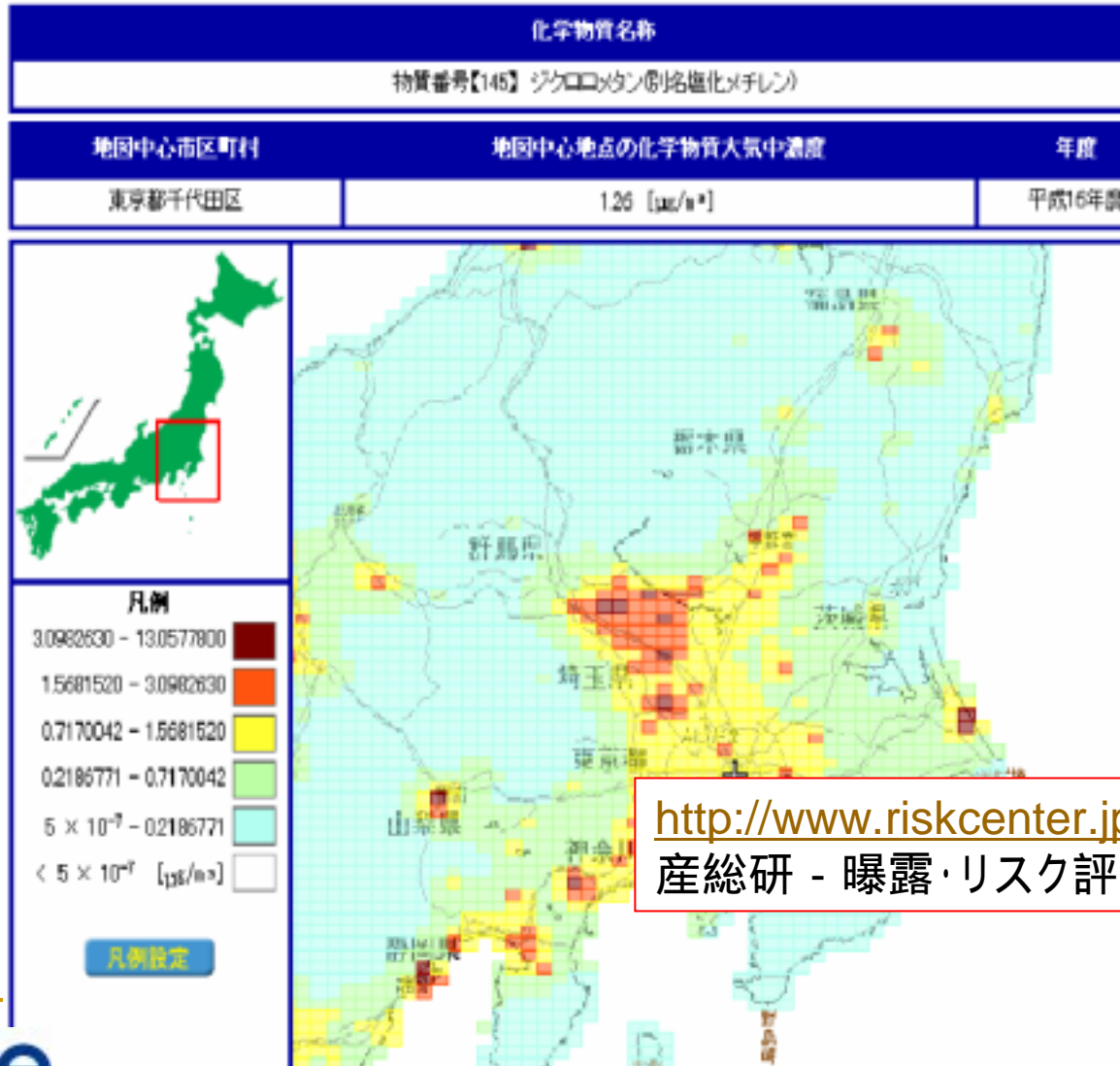
7	生殖毒性	分類できない	-	-	-	データ不足のため、分類できない
8	標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(中枢神経系、呼吸器)、区分3(麻酔作用)		危険警告	臓器(中枢神経系、呼吸器)の障害(麻酔作用)眠気またはめまいのおそれ	ヒトについては「チアノーゼ」、「頭痛、胸部痛、見当識障害、進行性の警戒性の喪失、疲労感と無気力状態の亢進、記憶喪失、時間感覚の喪失」、「視覚機能検査のうち臨界flicker frequencyの減少」、「神経行動学的な影響(警戒心の混乱、複合警戒追跡行動の障害)」、「肺の出血を伴う浮腫、皮膚の炎症:硬化を伴う肺炎、小脳扁桃ヘルニアを伴う大脳浮腫」(CERJ・NITE有害性評価書No.15 (2004))等の記述があり、実験動物では「気管支、細気管支上皮細胞の壊死、クララ細胞の腫大と空胞化、細胞分裂の軽度亢進」、「体性感覚惹起反応と脳波変化」(CERJ・NITE有害性評価書No.15 (2004))の記述があることから、中枢神経系、呼吸器が標的臓器と考えられた。なお実験動物に対する影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲で見られた。以上より分類は区分1(中枢神経系、呼吸器)、区分3(麻酔作用)とした。
9	標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1(中枢神経系、肝臓)		危険	長期または反復暴露による臓器(中枢神経系、肝臓)の障害	ヒトについては「断続的頭痛、吐き気、眼のちらつき、息切れ、一過性の記憶障害、脳波検査で右脳の障害」(CERJ・NITE有害性評価書 No.15 (2004))、「曝露後、幻聴及び幻視をともなう脳症が出現」、「知能障害をともなう記憶障害と平衡感覚喪失、両側性一過性側頭葉の変性」(HSDB (2000))等の記述、実験動物では「肝細胞脂肪染色陽性、軽度肝細胞空胞化」、「肝細胞の変異細胞」(CERJ・NITE有害性評価書No.15 (2004))等の記述があることから、中枢神経系及び肝臓が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲で見られた。以上より分類は区分1(中枢神経系、肝臓)とした。
10	吸引性呼吸器有害性	分類できない	-	-	-	データなし

環境に対する有害性

危険・有害性項目	分類結果	シンボル	注意喚起用語	危険有害性情報	分類根拠・問題点
11 水生環境有害性(急性)	区分2	-	-	水生生物に毒性	魚類(ファットヘッドミノー)の96時間LC50=5.2mg/L(EHC164, 1996)から、区分2とした。
11 水生環境有害性(慢性)	区分2		-	長期的影響により水生生物に毒性	急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いものの(BCF=40(既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない(BODによる分解度:13%(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分2とした。

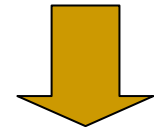
暴露情報 (PRTRデータからの大気濃度推定)

<http://www.prtr.nite.go.jp/prtr/densitymap.html>



PRTR対象の208物質について、PRTRデータに基づく、推定濃度がわかります。

5キロメッシュ
・自治体向け



さらに詳細な解析には

http://www.riskcenter.jp/ADMER/ja/index_ja.html
産総研 - 曝露・リスク評価大気拡散モデル

リスク評価情報(初期リスク評価書、詳細リスク評価書)

■ 初期リスク評価書を読んでみる。

化管法対象物質から、優先度の高い約150物質について、詳細なリスク評価やリスク管理への提言のため、統一した手法を用いてスクリーニングを行った評価書。

<http://www.safe.nite.go.jp/risk/riskhykdl01.html>

■ 詳細リスク評価書を読んでみる。

初期リスク評価で、詳細リスク評価の対象となった物質を中心に、より詳細な情報に基づくリスク評価を実施し、必要に応じ、リスク削減を提案している文書。

<http://unit.aist.go.jp/crm/menu/1.html> (産総研)

リスク評価情報(リスク評価体験ツール)(1)

<http://www.safe.nite.go.jp/management/about/experience/index.html>

リスク評価体験ツール

Step1 初期値の読み込み

このツールでは、リスク評価を体験する対象物質の初期値をいくつか用意しています。

● 初期リスク評価済み物質から選択

ジクロロメタン(別名 塩化メチレン)

→デフォルトデータは初期リスク評価書の内容です

(初期リスク評価書の詳細については、「[化学物質のリスク評価及びリスク評価手法の開発](#)」をご覧ください)

初期リスク評価で採用した
情報で評価ができる。

○ 室内濃度指針値が策定された物質から選択

ホルムアルデヒド

→デフォルトデータは厚労省 シックハウス(室内空気汚染)問題に関する検討会資料の内容です(有害性データのみ)

○ その他の物質から選択(初期値の読み込みをしない)

物質名 :

→デフォルトデータはありません

評価に使用する初期値データ及び評価物質を選択し、「次へ」で先に進んでください。

リスク評価情報(リスク評価体験ツール)(2)

リスク評価体験ツール

有害性情報:NOAEL(無毒性量)の設定 [NOAEL\(無毒性量\)についての解説](#)

初期リスク評価書を作成する際に根拠とした有害性情報を、以下に示しています。

初期リスク評価で採用した有害性情報がわかる。

ジクロロメタン(別名 塩化メチレン)の主要な有害性情報(ハザードデータ)

初期リスク評価書のヒト健康影響に関する記述部分

:Step1で選択した物質の初期リスク評価書における、ヒト健康への影響に関する記述部分が表示されます。

番号	試験における曝露経路	データ種別	無毒性量等	説明
<input type="radio"/> 1	1日合計推定経口	NOAEL	5 mg/kg/日	ラットを用いた104週飲水経口投与試験における肝臓に対する影響を指標
<input type="radio"/> 2	経口	NOAEL	5 mg/kg/日	ラットを用いた104週飲水経口投与試験における肝臓に対する影響を指標
<input type="radio"/> 3	吸入	LOAEL	65 mg/kg/日	ラットを用いた100日間の吸入連続(24時間)暴露試験における肝臓に對
<input type="radio"/> ユーザ指定	-	-		

- 有害性試験情報を調べるでは、初期リスク評価を行った物質について、有害性特定のために収集された試験情報を、試験動物やその結果から検索することができます。
- 初期リスク評価書以外の情報源から調べたい場合には、以下をご参照ください。

[CHIRPIによる検索](#) [NITE](#) [CHRIPを使った有害性情報の調べ方](#)

[化学物質安全性\(ハザード\)評価シート](#) [NITE](#)

[有害性情報を調べるためのリンク集](#)

リスク評価情報(リスク評価体験ツール)(3)

リスク評価体験ツール

● 暴露情報: EHI(ヒト推定摂取量)の設定 EHI(ヒト推定摂取量)についての解説

初期リスク評価書を作成する際に根拠とした暴露条件を、以下に示しています。

初期リスク評価で採用した暴露条件からヒトの摂取量がわかる。

	暴露媒体(単位)	媒体中濃度 ($\mu\text{g}/\text{単位}$)	媒体摂取量 (単位/日)	物質摂取量 ($\mu\text{g}/\text{日}$)	説明
1	大気(m ³)	20.0	20.0	400.0	環境省の調査結果の年間平均の最大値
2	飲料水(L)	1.0	2.0	2.000	日本水道協会による1999年度の全国水道水質調査最大検出限界の1/2
3	魚(kg)	160.0	0.12	19.20	日本食品分析センターによる1997年度の食事調査海城中濃度の年間平均の最大値
4					
5					
6					
7					
8					

モニタリングデータも使える。

合計摂取量	421.200	$\mu\text{g}/\text{日}$	体重	50.0	kg
体重あたりの合計摂取量	8.424	$\mu\text{g}/\text{kg}[\text{体重}]/\text{日}$			

計算する

- PRTR大気中の濃度マップ(NITE)では、地域別の大気濃度が調べられます。
- 独自に情報を調べたい場合には、以下の情報源をご参照ください。
暴露情報を調べるためのリンク集(リンク)

リスク評価情報(リスク評価体験ツール)(4)

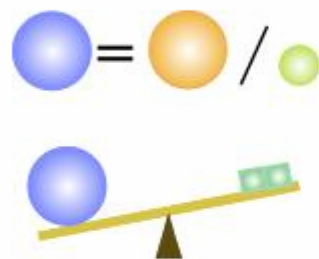
リスク評価体験ツール

Step3 リスク評価結果の表示

ジクロロメタン(別名 塩化メチレン)

CAS番号 : 75-09-2

PRTR番号 : 1-145



- NOAEL (無毒性量)
- EHI (ヒト推定摂取量)
- MOE (暴露マージン)
- UF (不確実係数)

評価の結果は以下の通りです。

- ・NOAEL(無毒性量) : 5(mg/kg/日)
- ・EHI(ヒト推定摂取量) : 8.424
($\mu\text{g}/\text{kg}/\text{日}$)
- ・MOE(暴露マージン) : $5 \times 1000 / 8.424 \approx 590$
- ・UFs(不確実係数積) : 100

このケースにおけるジクロロメタン(別名 塩化メチレン)の推定摂取量は、安全の確認されている量の590分の1であり、評価の不確かさ100と比較しても余裕があるため、ヒト健康へのリスクはないといえます。

ヒトへのリスク評価結果がわかる。

設定条件と結果の根拠

- ・NOAEL(無毒性量) : 5(mg/kg/日) の説明

ラットを用いた104週飲水経口投与試験における肝臓に対する影響を指標にしたNOAEL

化学物質管理に関する情報 (化学物質排出量等管理マニュアル)

<http://www.prtr.nite.go.jp/data/other.html> (当センターリンク)

http://www.meti.go.jp/policy/chemical_management/law/information/info6.html (経済産業省)

めっき工程の化学物質排出量等管理マニュアル

洗浄工程の化学物質排出量等管理マニュアル

有機合成工程の化学物質排出量等管理マニュアル

印刷工程の化学物質排出量等管理マニュアル

グラビア刷版工程、グラビア印刷工程、スクリーン印刷工程

塗装工程の化学物質排出量等管理マニュアル

貯蔵工程の化学物質排出量等管理マニュアル

機械加工工程の化学物質排出量等管理マニュアル

染色工程の化学物質排出量等管理マニュアル

接着工程の化学物質排出量等管理マニュアル

化学物質管理に関する情報 (他のリスクコミュニケーションを参考にする)

リスクコミュニケーション国内事例

日本国内でのリスクコミュニケーション事例を、県別に掲載しました。
現在の掲載事例数は、52社における105事例です。

リスクコミュニケーションの詳細な定義は様々です。NITEでは、種類や方法に関わらず、「地域住民などの関係者に対し、化学物質管理等を含む環境や安全に関して、情報公開や対話を行った事例」を、リスクコミュニケーション事例として紹介しています。
このような活動を行っている企業等は、環境等について、地域住民などの関係者に情報を公開し、対話の姿勢を持っている企業等といえます。

各県を選択すると、行われたイベント等が表示されます。
※セキュリティの設定により、2回クリックが必要な場合があります。
※ここでは紹介している事例及び企業等は、NITEの調査等により、これまでに掲載したものであり、日本国内の全ての事例ではありません。その他の事例について、ご推薦等あれば、chem-manage@chem.nite.go.jp へご連絡ください。



実施事例と関係資料も掲載

- ・2006/02/02 バイオニア(株) 所沢事業所、NPO埼玉環境カウンセラー協会
イベント名 : 環境リスクコミュニケーション
参加人数 : NPO埼玉環境カウンセラー協会10名、有識者1名、行政5名、傍聴者26名
内容 : 環境セミナー、取組報告、工場見学、意見交換会



環境セミナー



意見交換会

- ・2005/11/08 関東レザー(株) 清久工場、彰の国環境大学修士生の会 化学物質分科
イベント名 : 県民主導型リスクコミュニケーション
参加人数 : 23名(学識者2名、事業者6名、市民9名、行政6名)
内容 : 工場見学、環境セミナー、取組報告、意見交換会
参考URL : [彰の国環境大学修士生の会 化学物質分科会HP](http://www.chem.nite.go.jp/chem-manage/051108/)
(新しい取組み / 事前準備 / 実施報告)

国際貢献と海外への情報提供

(1) eChemPortal : a Global Portal to Information on Chemical Substances

～ 既存化学物質のハザードデータ情報を提供するグローバルなポータルサイト～

http://www.safe.nite.go.jp/ghs/kokusai_portal.html

OECDの既存化学物質のハザード情報などに関するデータベースのポータルサイトへの参加(第1版が2007年6月13日に公開)

(名称:eChemPortal ~ a Global Portal to Information on Chemical Substances ~)

- ・ 「化学物質管理SAICM(国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ)」への貢献
- ・ NITEのCHRIPから公開されている
“既存化学物質安全性点検データ(分解性・蓄積性の情報)” が参加
- ・ eChemPortalは英語での情報提供ですが、日本語でも検索可能。

(2) 英語版ホームページの公開

<http://www.safe.nite.go.jp/english/index.html>

化審法、化管法などについて、英語での情報発信も行っています。

ご清聴有難うございました

お問合せ先

独立行政法人 製品評価技術基盤機構
化学物質管理センター

〒151-0066

東京都渋谷区西原2-49-10 TEL:03-3481-1977

FAX:03-3481-2900

Mail: safe@nite.go.jp